（特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式）

令和元年度　徳島聴覚支援学校「学力向上実行プラン」

徳島聴覚支援学校長　　橋本　敦子　　印

1　学力向上検討委員会構成

学　力　向　上　検　討　委　員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	橋本敦子 掛田千津子
学力向上推進員	研究・情報課長	
委員	指導教諭，幼稚部長， 小学部長，中学部・高等部長， 渉外・安全課長，教務課長， 生徒活動課長，人権・キャリア教育課長， サポート課長，寮務主任	

2　学力・学習状況における現状分析，目標等

【3つの視点】

（1）基礎的・基本的な知識・技能の習得

（2）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

（3）主体的に学習に取り組む態度の育成

（　幼　稚　部　）幼児児童生徒の状況			
よさ	教員が絵本を読み始めると，自分の経験と照らし合わせて話したり，次の展開を予想したりしながら，絵本を読むことを楽しむ。発見したこと，体験したことを話しながら，教員と一緒に図鑑を見ることを楽しむ。	課題	自ら絵本や図鑑を持ち出して見たり，絵本や図鑑を題材におとなと話をしたりすることが少ない。好きな絵本が見つけられない。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
日常的に絵本や図鑑に親しみ，興味を持って話を聞いたり，見たりする。	親子で，月に3冊以上，絵本を借りて読む。	・全体集計では月に平均3．3冊，絵本を借りて読むことができた。 ・個人集計では，半数以上の親子が，月に3冊以上借りて読むことができた。 評価　　A
具体的方策（教員の取組）	取組指標	取組状況
・絵本を紹介する掲示を行う。 ・保護者に対して，懇談や通信をとおして，絵本のおもしろさや読み聞かせの大切さ，方法等を伝えたり，絵本の紹介をしたりする。 ＊中間期の見直し	・壁面掲示や絵本ラックを活用して，絵本の紹介を行う。 ・学期に1回以上，保護者に対して，絵本に関わる情報を提供する。	・月替わりや季節の行事に合わせて絵本ラックの絵本の入れ替えとポップ掲示を行った。毎月1冊ずつ，絵本のあらすじを壁面掲示を行った。 ・保護者との懇談会，手話勉強会の時に，絵本の紹介，読み聞かせの方法について情報提供を行った。
達成状況を踏まえた改善事項		
教員が絵本を紹介することは，絵本を借りる，絵本を読む行動へと導きやすかった。来年度は，誕生表や毎月の壁面に絵本の主人公やストーリーを掲示したり，その絵本を教員が読み聞かせたりして，読んでみたい気持ちを高める。		

（　小　学　部　）児　童　の　状　況			
よさ	児童は明るく素直で授業にも積極的に取り組んでいる。授業においては児童一人一人の課題を重点目標として配慮して取り入れ，生活の中でも，言葉の種まき等に取り組み効果を上げている。	課題	聞こえにくさから言葉や助詞等の正確な文法，読解力を身につけることが難しい児童が多い。児童一人一人の個別課題を分析して指導に生かし，言葉や文法等の課題に配慮した指導を積み重ねていくことが必要である。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
日本語の語彙を増やして正しい文法を身につけ，日本語で思考し，主体的に活動できる子ども。	J.coss（日本語理解テスト）において正答率が向上した児童の割合を80％以上にする。	１月末に児童全員にJ.cossを実施した。正答率が向上した児童の割合は89％で，目標は達成した。 評価　B
具体的方策（教員の取組）	**取組指標**	**取組状況**
児童の課題を分析する。学部研修を行い，グループに分かれて児童の課題に応じた教材教具を作成する。作成した教材教具を使って模擬授業を行ったり，授業に活用したりする。言語力や発達段階に応じた教材教具を共有できるようにする。 ＊中間期の見直し	・児童一人一人の過去の検査結果を分析する。 ・月１回，グループ又は学部全員で研修会を行う。 ・２学期に模擬授業を行い，教材教具や指導法の改善を図る。	・J.cossの結果の経年変化が個別に分かるシートを作成し，児童一人一人の結果を分析して学部教員で共通理解した。 ・4グループに分かれて月1回，学部研修を実施した。 ・研究した教材を用いて各グループの模擬授業を行った。学部教員からの意見を基に改善を図り，実際に授業を行った。

達成状況を踏まえた改善事項
模擬授業や研究授業で研究したことは児童の課題の一部であるので，今後も継続して研究をし，効果的な授業事例や教材等を増やしていきたい。 児童は全体的には日本語理解力が向上し，思考力の基礎基本となる力をつけている。しかし，個別にはまだ課題の多い児童もいる。児童の課題に対する効果的な指導方法についても今後研究を進めていきたい。

（中　学　部　）幼児児童生徒の状況			
よさ	昨年度からの取り組みによって，「朝学習の時間」になると，各自の教室に入り席に着くことができるようになった。	課題	将来の目標を考え始めてはいるが，目標実現に向けた具体的な方策や，課題解決の方法をみつけられていない生徒がいる。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
個々の学習課題を適切に捉え，克服しようとする。	「朝学習の時間」に70％以上が学習に取り組む。	始業のチャイムが鳴ると，ほぼ全員が教室に入り，70％以上の生徒が朝学習に取り組むことができた。 評価　A
具体的方策（教員の取組）	**取組指標**	**取組状況**

・朝学習の時間を設定し，生徒が自主的に学習する環境作りをする。 ・生徒一人一人の特性に配慮した支援の在り方について検討し，教員が協力して指導する。 --- ＊中間期の見直し	・8:30～8:40の間を「朝学習の時間」とし，生徒の学力に合った課題をさせる。 ・学部研修の時間を活用し，学部全体で支援にあたるための情報交換を行う。	・各担任が，生徒の実態に合わせた課題等を作成・準備をして実施させることができた。 ・情報交換等を密に行うように心がけ，学部全体で支援・指導にあたることができた。
達成状況を踏まえた改善事項		
生徒が自主的に学習できる環境作りに努め，基礎学力の定着を図る。		

（　高等部　）生徒の状況			
よさ	昨年度，3年生が英検準2級に合格し，本校のベンチマークが更新された。また，補習を重ねて理容師国家試験に合格した姿も，後輩達が見て学んだ。学力向上に向かう流れが作られつつある。	課題	高等部生徒の中でも，学習目標を明確に理解できている者と，まだ十分でない者とがいる。高等部は本校の最終学部であり，学力の向上は即社会生活につながっていることを理解する必要がある。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
目標をもち，積極的にチャレンジする。	生徒それぞれが，希望する進路に沿った資格や検定，模擬試験等に挑戦し，受験者のうち70%が目標を達成する。	1名が都合で漢字検定を受検できなかったため，本年度の挑戦目標を達成できなかったが，他の者はそれぞれ自分の目標を達成し，86%の達成状況となった。 --- 評価　　A
具体的方策（教員の取組）	取組指標	取組状況
・生徒個々の進路目標に沿った，資格や検定の情報等について，収集と生徒への提供を行う。 ・合格に向けた指導（補習等）や課題の提供を行う。 ・昨年度の自己記録を上回る級の検定や資格試験，模擬試験等に挑戦するよう勧める。 --- ＊中間期の見直し	・生徒個々に適切な資格，検定等の情報を年間1回以上提供する。 ・検定等の合格に必要な課題を各検定前2ヶ月の間，1週間に1回以上提出させる。	・これまで資格・検定等の受検を拒んできた生徒が，本年度は教員の誘いに応じて漢字検定を受検することができた。 ・P検定（ICTプロシエンシー検定）の受検者が3年ぶりに現れ，教師の指導により目標級に合格できた。 ・資格や検定の必要性について生徒の理解が進んでいる。複数の検定に挑戦する者が増えてきた。
達成状況を踏まえた改善事項		
この取組の継続によって，生徒の資格・検定への意識が向上し，検定などは「より上級へ」という意欲が育っている。今年度は，P検定挑戦の復活もあるが，生徒の進路を考えながら可能な範囲で資格・検定の幅を広げていきたい。		